

## 「市長とのふれあいトーク（市政懇談会）」開催結果概要

テーマ
地方人口ビジョンと地方版総合戦略について

日時	場所
平成28年1月18日(月)18:00～20:00	紅葉山会館
平成28年1月19日(火)18:00～20:00	はまなす会館
平成28年1月20日(水)18:00～20:00	市民研修センター

No.	主な発言内容	回答者	回答	備考
1	民間賃貸住宅の建設を推進する旨について、市営住宅の増設や、所得制限の緩和・撤廃等の考えはないのか。	市長	<p>公営住宅法が4年前に改正され、自治体によって所得制限をある程度緩和できるようになり、夕張市は日本で一番最初に変更した経緯がある。</p> <p>しかし一方で、公営住宅には維持管理のため、継続的に税金が投入されるが、民間賃貸住宅であれば、家賃収入の中から運営事業者が自ら保全してもらえるため、当然ながら民間賃貸住宅が増える方が、市の将来的負担は減少する。</p> <p>また、民間賃貸住宅はデザイン等の面でも若い世代の入居意欲を喚起するものが多いことから、低廉な家賃で住める場所があれば、あえて公営住宅に住む必要性もないと思われる。</p> <p>今あるものを活かすのは大切な考え方であり、今後も議論していかねばならないが、将来に向けての負担を少しずつでも軽減していくため、まずは多すぎる公営住宅を適正な規模とし、同時に少なすぎる民間賃貸住宅を必要とされる数まで高める努力をしていかなければ、まちの構造は変えられないと考える。</p>	意見
2	「居住条件さえ揃えば住んでも良い」との意見だが、具体的にどのような条件が挙げられるのか。	市長	<p>まず市外からの通勤者のうち、7割ほどは今後も市内への移住を希望しないと回答しているが、残り3割のうちに、早くに条件が揃えば住みたい、という方々がいる。この条件については当然個々に異なるが、例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単身で広い間取りの市営住宅に住んでいるが、結婚等で転居の必要が生じ、市営住宅から市営住宅へは転居できず、市内に民間賃貸住宅がないために、市外へ転出してしまふ</li> <li>・夕張市内で働くことになり、当初は市営住宅に居住していたが、徐々に所得が上がり退去せねばならなくなるも、市内に適当な価格帯の民間賃貸住宅がなく、市外へ転出してしまふ</li> </ul> <p>等の状況がある。いずれの場合も、ニーズに合わない部屋に住んでいる人が、次のステージに進む際、自身の状況に合った居住先が市内で見つからず、市外へ転居してしまうというケースであり、ここで一度出て行ってしまった人に再度戻ってきてもらうことは、非常に難しくなる。</p>	意見
3	民間賃貸住宅の建設促進について、現在建築されている住宅について、家賃が高い等の障害があるとのことだが、国の補助制度のようなものはないのか。	市長	<p>今建設中の住宅については、市の補助制度（一戸あたり200万円）を既に活用しており、建設コストの0.8%以下の家賃設定とすることを規定しているため、高規格住宅としては割安の価格設定となっている。しかし、さらに低家賃の住宅に対する需要があるため、条件設定を変えて補助事業を整理し、より家賃負担の小さい住宅の整備を進めることを検討している。</p>	意見

4	市外からの通勤者800人以上とのことだが、どこから通っている人が多いのか。	市長	栗山・岩見沢・札幌からの通勤者が多い。	意見
5	民間賃貸住宅の建設促進に係る市の補助金は、今後も継続されるのか。	市長	来年度以降に関しては、何らかの形で財源化するべく検討し、引き続き実施する方向としたい。	意見
6	宮前に建築している市営住宅に市外通勤者の方を居住させることは無理なのか。	市長	宮前で建築している市営住宅については、「新たに市営住宅が建築されたら移住したい」という意向確認ができた戸数に限り、建設して構わないと条件のもとに建築している。このため、広く新しい方を受け入れるというよりは、古い住宅から新しい住宅へ移ってもらい再編する、という意図のもとに建築している。	意見
7	夕張市における一軒家への居住意向は、あまり高くないのではないかと（住む人がいなくなって、すぐに壊してしまった民家もある）	市長	市内のある地区では若い人たちが土地を買って家を建てており、一軒家に対するニーズはある。 また、現在単身で一軒家に住んでおり、バリアフリー化やリフォーム等を行っているご年配の方も多いが、そうした方が介護付きの住宅等へ転居する際など、条件の良い住宅が余ることとなる。 こうしたニーズのマッチングを行うことで、双方にとって負担の少ない住環境の整備を進めることができると考えている。  また、市内の不動産情報についての基礎データを全件調査したものを作成し、公開することも検討している。	意見
8	自分が住む町内では、若い世代の人が古い空き家を買って、自分で整備して暮らしている例が2件ある。しかし、こうした空き家は壁紙が剥がれていたり状態が悪く、相応の手をかける必要があったと聞く。 若い世代の定住を地域全体で大事にしていくためにも、壁紙の張り替えなど、たとえ一部でも空き家のリフォーム補助などを市や国の制度で行い、応援することはできないだろうか。	市長	ご提案の内容はまさしくアクションプランの一つとして今後実施を検討しているものだが、移住促進の施策については、これまで他の市町村で実施されていながら、夕張市では実施できていなかった取り組み等がたくさんある。 今回ご提案いただいた内容を含め、ひとつひとつ具体的な施策を今後きちんと詰めていきたいと思う。	意見
9	夕張市内のとあるログハウスは、基礎部分や水道などの一部のみ業者に施工してもらい、上物は一般の方がDIYで製作し、現に居住しているという。 例えば、土地と基礎部分をパッケージとして販売し、建物部分を自分で製作できる（その間の居住場所は別途用意）等、夕張の豊富な自然を生かした誘致活動も可能なのではないかと。	市長	土地の価格を改定したこともあり、個人で家を少しずつ建てている方もいると聞いている。 様々なニーズがある昨今、十分に可能性のある施策であると思う。	意見

10	市外から移住された人の体験談やコメント等を、市HPに掲載してはどうか。	市長	都会には都会の、自然豊かな地方には地方の魅力があり、夕張が持つ魅力についてもきちんと磨き、また正しく伝える努力が必要であると思う。 そのためには総合戦略に記載するなどして伝えていく必要があると思うので、ぜひ参考とさせていただきたい。	意見
11	低家賃住宅も重要だが、一番重要なのは医療費だと思う。栗山町では高校生まで無料化しており、夕張市としても段階的に無料化の年齢を引き上げていくことが必要だと思う。	市長	夕張市としても未就学児童の医療費は無料化したが、今後一層の拡充が必要であるというご意見については、きちんと受け止め、今後検討していきたい。	意見
12	住環境だけでなく、子育て環境や医療環境、買い物の便などの条件が整わなければ、人は住まないと思う。	市長	色々な条件が整わなければ住まないという方もいるかもしれないが、まずは現状ですでに「夕張に住みたいけれど住めない」という方に住んでもらえる環境を整え、段階的に様々な条件を整備していく形でスケジュールを立てていくべきと考える。	意見
13	若い世代を定住させたいという視点で考えるのであれば、幼児を育てる環境として幼稚園・保育園が減ることのないよう取り計らう必要があるのではないか。	市長	保育園・幼稚園では初めての集団生活を学ぶという視点から、一定以上の人数の幼児が通うことが望ましいといわれる。 経営の観点からみても同様であり、児童の減少に伴い、施設も適切な数になりつつあるともいえる。 たしかに、経営環境の問題だけを理由として、いたずらに保育園・幼稚園の数が減少する等の状況や、通園の便が著しく損なわれるといった状況は避けねばならないが、一方で残る施設での延長保育や一時保育といった保育環境の充実など、サービス面で充実を図るべく保育協会と調整を進めているほか、幼保一元化についても検討中である。	意見
14	公園の話題が出ていたが、子どもが遊ぶ場所が少ないことが問題。平和運動公園など、遊具は少なくとも自由に遊べるスペースが確保できる場所については、有効に活用すべきと思う。 また、石炭の歴史村公園についても、トイレの解放や定期的な清掃等は必要だと思うが、スペースとしては十分であり活用できると思う。 現在ある施設を活用して、親が子どもと一緒に遊びに行けるよう整備してほしい。	市長	平和運動公園や文化スポーツセンターについては、民間の力を活用してもう少し柔軟に活用していきたいと考えており、また歴史村公園についても、昨年アーティストの方が利用してくれたという実績もある。 一方で、公園の数が多く、使っているところ・使っていないところをはっきりしてきたため、選択的に整備していくことが必要であると考えている。 また、公園には種類もあるので、外から来た方にもわかるよう、総合的な公園の情報整理と発信も必要であると考えている。	要望
15	丁未風致公園へ犬を連れて行ったが、芝が綺麗に刈ってあり、犬も喜んでいた。高松のキャンプ場なども、維持管理にはお金がかかるが、魅力を持った施設なので、予算の範囲で検討してほしい。	市長	風致公園は草も刈ってあり、子どもが駆けたりするには良いところだが、情報の整理と周知は今後の課題と考えている。	要望
16	子育て支援について、公園や見守りの環境、母親が安心して働ける環境の整備は重要。 そうした機能を、子育て支援センターで高齢者が担うことで、高齢者と子どもが互いに関わり、ともに生きがいを感じられるような取り組みができればよいと思う。	市長	子どもの数が少ないので、地域で見守るということを昔から行ってきた部分はあるが、施設整備は財政破綻以降、積極的に進められない状況にあった。現在、様々な場で住民の皆様から拠点施設に関する要望や感想はいただいております。関心の高さは意識している。今後の施策推進の励みとさせていただきたい。	意見

17	幼保一元化については、どのような進捗状況なのか。	教育長	幼保一元化については、市内で生まれてくる子どもの数が減少傾向にあることから、状況を見ながら今年度末頃から議論をスタートする。	意見
18	借金を返すだけでなく、若者が住みやすい住環境を整えるためには、拠点施設の充実は非常に大切だと思うが、本当に実現可能なのか。	市長	「財政再生団体だからできないじゃないか」ではなく、必要であるということをして市長として先頭に立って訴え、「やらねばならない」という想いでいる。	意見
19	小学校・中学校が1箇所ずつとなったことに伴い、放課後の子どもたちの生活に何か問題は起きていないのか。また、学童保育の現状について教えてほしい。	教育長	小学校の空き教室を利用した学童保育は、定員いっぱいの25名。老人福祉会館を利用した学童保育と人員のやりとりがある。若菜は5名程度と、ある意味で歪な状況。指導員が2名ずつついている。 南の方には子どもの居場所づくりについて、現在検討中。 現在は多くの生徒が通学にバスで帰宅しているが、おおむね1時間に1本程度バスが出ているため、極端な時間的制約は起きていないようだ。 清水沢地区に小中学生のうち4割程度が居住している状況。 北、中央、南と、市内全体の様子を見ながら、今後の計画を立てていく必要があると考えている。	意見
20	今年の夕張中学校から夕張高校への出願状況はどの程度なのか。	教育長	今日から願書の受付が始まり、25日に締切となるが、現状の受付状況をこの場では発言できかねる。 また最近の卒業後の進路について、いわゆる職業科のある高校や、スポーツをやりたくて私立高校へ進学する生徒など、自分の進路を主体的に考えて進路を選択する生徒が多いように感じる。 それらの状況をかんがみ、進学意向にも、就職意向にも応え得る高校として、今後取り組んでいく。	意見
21	市内の中学生のうち、夕張高校への進学を希望する生徒は（調査時点で）わずか3割程度であったとのことだが、アンケートにおいてピックアップされている項目などあるか。	市長	「高校に必要なもの」として、選択肢から複数選択可としてチェックを求めているが、その中では「夕張のまちづくりに積極的に関われる高校づくり」「夕張の特性を活かした高校づくり」「学力を高める支援」「スポーツや芸術に特化した支援」「生徒の数が少ないからこそできる充実した教育」「社会で求められる人間力」などを求める声が多くあった。 また、自由記載の意見の中には「『ああ、夕張高校か』ではなく、『おお、夕張高校か！』と言われるような高校づくり」といった意見もあった。 アンケート全体を通して、夕張高校に通学する生徒のアンケートからは、満足度が高いという結果が得られている一方で、今後の進路選択を考えている中学生は不安を抱えている、という状況が見える。正しく学校生活の内容やイメージを伝えていく必要があるとともに、子どもたちがアンケートで求めているような教育内容の充実を今後考えていかねばならない。	意見
22	三笠高校は調理に特化した高校づくりを行って成功しており、夕張高校においてもそうした検討を行ってはどうか。	市長	アンケートにおいてもスポーツや芸術への特化に対する要望はあったことから、検討は必要であると感じている。 一方、市内唯一の高校ということもあり、特定の分野のみに特化することは、地元での進学を絞り込んでしまうおそれもある。現在も国公立大学への進学を希望する生徒を対象とした学習支援と、卒業後の就職を見据えた資格取得支援なども行っており、できるだけ幅広く生徒の希望に沿うことができる教育を模索している。	意見

23	<p>若い世代が子育てしようとするならば、教育環境が整備されていることは非常に重要。 「これが夕張高校の魅力」と言えるものを持っていることで、高校を卒業した生徒が夕張に残りたい、あるいはいずれ戻ってきて、いつか何かの役に立ちたいと思うきっかけになるのではないかと。</p> <p>高校魅力化の取組み案の一つとして挙げられていた、交換留学などは英語教育にもつながることが考えられ、子どもをここで育てたい、子どもがここで勉強したいと考えてもらう大きな希望になると思う。</p>	市長	<p>現時点でもマウントレースイスキー場へは外国から多くの方が訪れており、交換留学の提案についても、決してゼロベースからの提案ではなく、夕張高校が持つ可能性を活かす施策の一つである。</p> <p>また、夕張には高校が一校しかなく、万が一高校が閉校になると、親に負担をかけられないが進学したいという生徒は、進学という選択肢そのものが取れなくなってしまう。現に高校で勉強している生徒や、近く進学しようという生徒たちのためにも、「生徒数が少ないからこそできる、丁寧な教育」について、まちぐるみで考えていくべきだと考えている。</p>	意見
24	<p>離農した農家の土地やハウスがそのまま放棄されているような場所を利用し、夕張高校でメロン農家について学んだり、栽培等について研究する場として活かすことはできないだろうか。</p>	市長	<p>庁内のワーキンググループでも同様の話が出ており、今後検討の価値があると思う。</p> <p>また、同時に今回の取り組みは道の高校に対して市が、まして財政再生団体である夕張市が支援していくという特別な取り組みであり、それを支えるのは地域の皆様の「夕張高校を支えよう」という想いである。この想いととも、夕張高校の魅力を高めるべく、皆で取り組んでいく姿勢を継続したい。</p>	意見
25	<p>夕張メロンの味や価値をより多くの人に知ってもらうため、5～8月に夕張を訪れ、メロンの栽培・収穫・出荷と試食を体験できるようなツアーを、農協と協力して企画できないものか。</p> <p>この取り組みにより、労働力の確保に加え、農業体験を通して、農家の方々と観光客が交流する場を創出したい。また、事業実施にあたり、参加者が一時滞在（短期居住）する場として、市営住宅の一部を開放してもらうことはできないか。</p>	市長	<p>非常にニーズはあると思うが、農家の繁忙期でもあるため、どのように実施することが望ましいかといった部分についても農協や農家の皆さんとともに考え、検討したい。</p>	意見
26	<p>働く場として、今後の企業誘致についてどのように考えているか。</p>	市長	<p>市内企業は雇用を拡大しており、夕張市内における求人数と求職者数を単純に比較すると、求人の方が多く、「仕事が残っている」状況にある。しかし、求職者が希望する職種によっては、夕張市内での求人が少なく、市外に出ざるを得ないという状況も当然にあり得る。</p> <p>そうした部分もあり、地元企業が雇用を拡大しようとしたとき、人材が少ないために、企業間で人の取り合いになってしまっている。仮に、現状で短期的に大きな雇用を必要とする企業がやってきたとしても、なかなかそれに沿うことができない。単に仕事を増やすことだけに注力するのではなく、住環境や子育て環境などと合わせて整備していくことが重要であると認識している。</p>	意見

27	農家の後継者のうち、40代で結婚していない人も数名いる。若手の交流会などもない。	市長	婚活は農協青年部が主体となって実施しているもの、役所と連携しているもの、ともに現在も行っており成果も出ているが、これは今後とも継続していくべきと考えている。 一方で、農家の子どもが必ず農家を継ぎたいと思うわけではないであろうし、しっかりした経営、きちんと収入を得られる仕組みづくりなど、市役所も次世代の皆さんと一緒に経営の観点等から勉強していきたいと考えている。 地理的表示事項が認められたことから、次世代を担う方々と話し合いを深め、本当に必要と思われる施策を実施していきたい。	意見
28	JR石勝線の減便に伴い、最終便を退勤に使っている方に支障が出ている。 デマンド交通を今後実現していくにあたり、複数企業の退勤にあたって、デマンド交通で対応することはできないだろうか。 具体的な交渉は企業と運行業者間で行うにしても、選択肢として可能かという部分だけでも市側で調整し、企業に提案してやることができれば、企業側も非常に助かると思う。	市長	JR減便の影響については、市として対応を考えるべきとのご意見もあるかと思うが、地域の声や実情をJR側に伝え、JRとともに考えていく必要があると考えている。	意見
29	来年度の石炭博物館について、個人としての対応はなく、団体のみ受付可能と聞いたが間違いないかとのことで、市外の観光業者より問い合わせがあった。 個人のお客様に対しても、期間限定で開放するなどの方策を検討していかなければ、夕張にお越しいただいた方に対して、何を売りにして何を紹介していけばいいのか。	教育長	H28～29年度の石炭博物館リニューアルにあたり、H28年度は5月から坑道のリニューアルを行うため、本館のみの活用を考えている。今後の予算の問題もあり、期間中常に博物館へ人を常駐させるという対応は難しいと考えているが、7～8月等の一時期に限定すれば、個人のお客様への対応も検討可能であると思う。逆にH29年度は本館をリニューアルするため、進捗状況も考慮しつつ、近々に対応についての情報をお伝えしてまいりたい。	意見
30	戦略3の「市有林を活かした薬木産地化プロジェクト」について、市はどのような取り組みを考えているのか。	市長	昨年、キハダとホオノキという2種類の樹木を約4千本ほど植樹しており、ホオノキについては登録上、日本最多の植樹数である。約15年ほどで収穫できるようになるが、樹皮が生薬の材料となる。 この施策は地方創生のメニューで実施することが可能となった取り組みであり、困難な状況にある今だからこそ、15年先のために植樹することで、再生団体からの脱却の先に希望を残すことができるとして、実施すべきとの結論に至った。 なお、植樹は子どもたちが行い、行った子どもたちが成人する頃に成熟し、収穫が可能となる見込みである。	意見
31	先日「夕張には地震が起きない」ことを魅力にして、全国に発信していくべきだという若者がいた。こうした魅力を市も積極的に訴えていくべきではないか。	市長	結果として災害が少ないことは確かであるが、科学的根拠等を示すことができないと、自治体として声高に叫ぶということは難しいと考える。	意見
32	空気や自然、水、夏場の涼しさ、美味しい野菜など、地元に住む方が普段意識しないところにある「夕張の良さ」を活用すべき。	市長	夕張に対してネガティブなイメージを持っている方が多いと思うので、夕張が挑戦する姿勢を示していくとともに、夕張が持つ具体的な価値についても同時に発信していくことが大切であると考えている。	意見

33	<p>夕張岳の近況として、独自にカウンターを設置してカウントしてみたところ、6/20～9/30の間に3千人弱の来訪があった。</p> <p>本州からもたくさんの来訪があるが、本州では見られない自然を夕張岳では見られるとたいへん好評であり、夕張市にとって非常に貴重な観光資源であり、教育資源でもあると思う。</p>	市長		意見
34	<p>夕張には、スキー場、川遊びができるような河川、夏場の登山や冬山のトレッキング等が楽しめる夕張岳と、非常に魅力的な自然を近隣に備えている。都会に住む人には非常に魅力的なコンテンツを持っており、そうしたものを活かしてほしい。</p> <p>また、夕張が持つ様々な魅力について、それぞれ専門的に研究しており語れる人が、夕張には多くいる。高校魅力化の項でも触れられていたが、「夕張を語れる若い人材を育てる」ために、ぜひ今まちの魅力を語れる方々の力を活かしてほしい。</p>	市長	<p>財政破綻以降、きちんとした方針が整備できない状況にあっても、合宿や様々なスポーツイベント等が随時開催されてきた。</p> <p>自然やスポーツ等による今後の交流人口増加を考えるうえでは、まず受け皿となる存在の整備が不可欠であると考えている。受け皿を整備することで、様々な知識や経験を持つ人材を繋げ、高校の魅力化（人づくり）とも連携して推進することができると考えている。</p>	意見
35	<p>この「ふれあいトーク」は素晴らしい内容だと思うので、実施箇所をもう3か所くらい増やしてはどうか。</p> <p>また、資料を全戸配布してはどうか。</p>	市長	<p>「市長とのふれあいトーク」とは別に、「市長と話そう会」は5名以上～お申込みいただけるので、よろしければそちらもご活用いただきたい。</p> <p>また、資料については地方人口ビジョン・地方版総合戦略の策定途中における内容であり、今年度内に策定を終え、確定した後にお知らせしたいと考えている。</p>	意見
36	<p>17日に実施した第三者委員会との日程の兼ね合いについて、もう少し日程調整してもらいたい。</p>	市長	<p>17日の第三者委員会は、再生方策検討委員会が主体となって実施したものであり、市が主体となって実施したものでないことはご理解いただきたい。日程についてはやむを得ずこの日程としたが、今後あらためて留意することとしたい。</p>	要望
37	<p>市職員が地域に入り、市民を動かすことで、市職員の負担を軽減できると思う。市職員には、もっと積極的に地域に入ってほしい。</p>	市長	<p>過去に市長公約として「地域担当職員制度」を掲げたものの、多くの課題があり実現できなかった経過については反省しなければならないところであるが、現在も高校の魅力化等、職員が様々なワーキンググループを結成し取り組んでいる。また、市内のイベント等に若手職員が団体で出席しているところもあり、そうした職員の自発的取り組みについてもご支援いただけると大変ありがたい。</p>	要望
38	<p>H27.8.1の障がい児サマーキャンプでは、市職員40名がボランティアなどにお金を出してまで活動しており、そうした活動を市民はたいへん評価している。ぜひ、職員には仕事が大変だからこそ、勇気を持って地域に飛び込んでもらえれば、市民はもっと動くということ伝えてほしい。</p>	市長	<p>職員もこうしたお言葉をいただけることは、たいへん励みになることと思う。</p>	意見

39	市外の方は、日本で最低の財政状況になった以上、日本で最低の状況でなければならないと思われるかもしれないが、市長や市職員の努力もあり、なんとか不便なく暮らせている。 市長や市職員の給与改善が必要ではないか。	市長	破綻から10年が経過し、破綻ときに策定した各種計画等を現在見直す時期に面しているが、破綻ときに260人程度いた職員が現在100人程度まで激減しており、職員一人ひとりの負担は増している。 それでも職員は努力しており、皆様から励ましのお言葉をいただけることはたいへん励みになると思う。皆さんのご意見をいただきながら、安定した体制を作っていきたい。	意見
40	今年も採用があったと思うが、今後も市役所には若い人を雇用し、育ててほしいと思う。	市長		要望
41	2040年の人口展望について、明るい展望が開けるビジョンであるようには見えなかったが、市長としてはどのような思いをもって、このグラフを見てほしいと考えているのか。	市長	人口ビジョンにおける合計特殊出生率の目標値を1.93としているが、これはかなり高い目標値であり、相当の努力をしなければ到達できない値を設定している。 さらに、ここでの数字に加え、総合戦略に連ねた政策の実現により、社会減の抑制だけでなく、将来的には誘引効果も期待しており、それらの値までは正確に計算して想定しているわけではない。当然、ビジョンに示す人口以上を目指して政策を実施していく。 根拠なく見栄えのよい数字を主張するのではなく、まずは厳しい推計値を受け止め、現実的にどうすれば可能な範囲で夕張の人口を維持できるのか、市民の皆さんとともに考えていきたい、という思いで提示する数字である。	意見
42	人口ビジョン（案）によれば、2040年には人口が現在の半分以下になる見込みとなっているが、再生団体として借金を返しながら人口規模も縮小して、果たしてまちを維持していくことができるのか。	市長	2040年にはすでに再生団体を脱却している見込みであるが、まちの維持という観点からすると、平成25年度に策定した「夕張市まちづくりマスタープラン」では、「20年後に人口が半分になっても持続可能なまちづくり」を既に掲げており、その実現のため現在も取り組みを進めている。  また、そもそも人口規模がまちの価値の全てではなく、住民が夕張に住んでいて幸せかどうかということこそが重要ではないかと考える。 厳しい数字を直視しつつも、そこに挑戦し、少しでも人口の減少を食い止める努力をしながら、たとえ人口が半減しても「何が幸福か」ということを皆で一緒に考え、模索するまちづくりを推進していきたい。	意見
43	かつて12万人に迫ろうかという人口であったまちが今や9千人だが、夕張を好きな人は今もまずまず幸せに夕張で暮らしている。 9千人が4千人になっても、きっと幸せに暮らしていけるのではないかと思う。	市長	人口が少なくなったときのことを考えると、都市拠点として一定程度の利便性を確保できる場所と、一方で自然に帰っていく場所（自然を体感できる場所）とを整備し、生活できる体制を作っていくため、今からしっかりと準備していくことが大切。	意見